

「現在の勤務状況」に関する アンケート集計結果

対象：旭川医科大学医学部医学科
同窓会会員

平成20年12月 アンケート送付

2,671 通

アンケート回答総数

658通

宛先人不明等で返送された数

76通

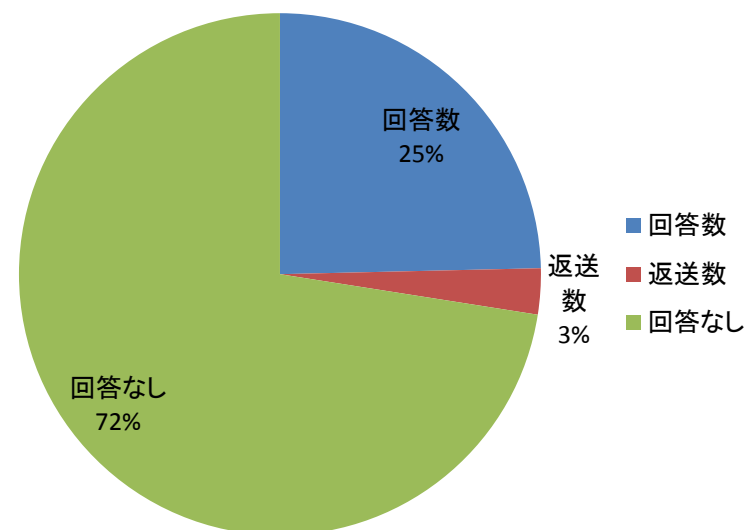
回答なし

1,937通

アンケート回収率

アンケートにより発掘した
潜在人材の登録希望者数

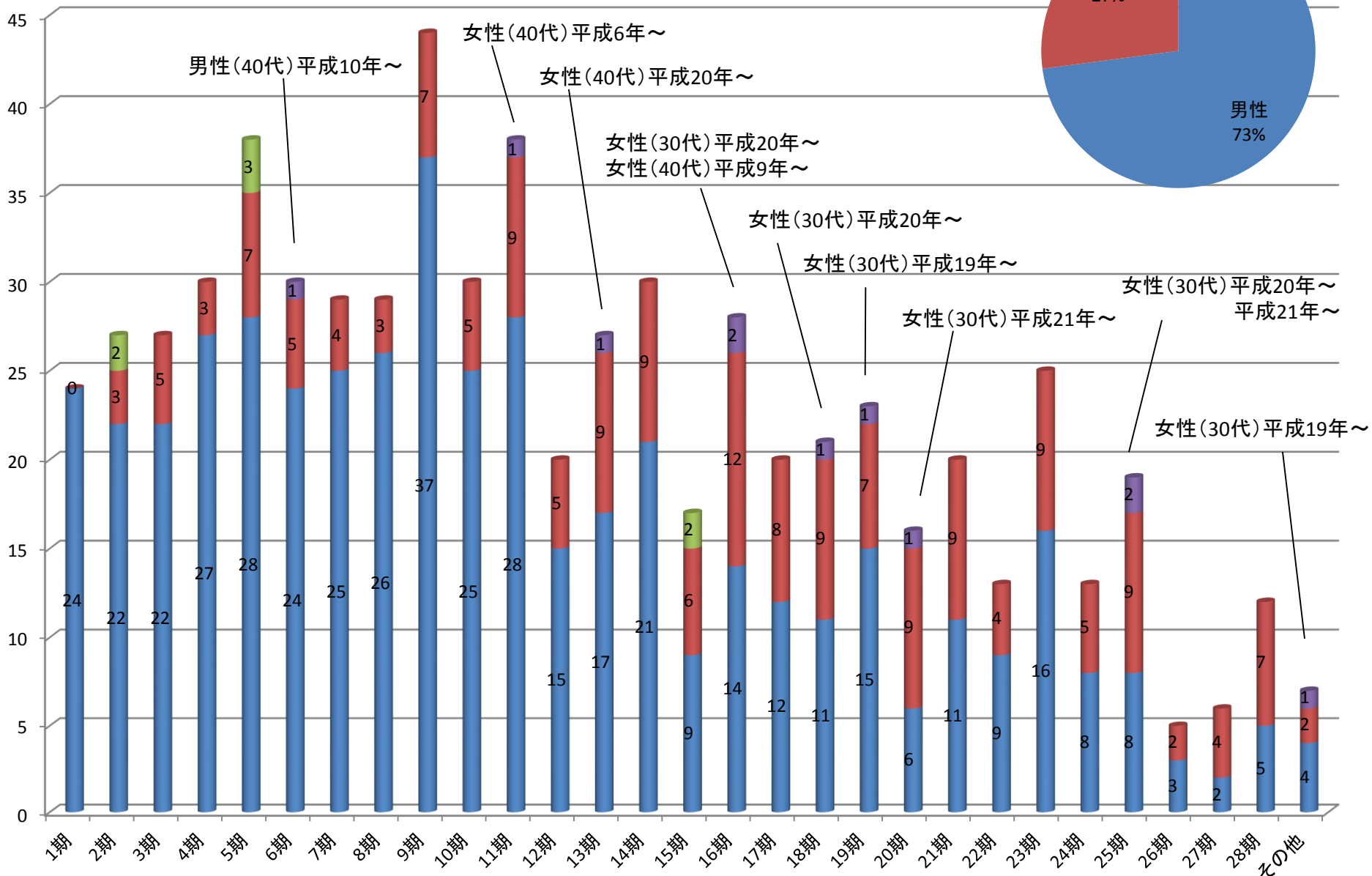
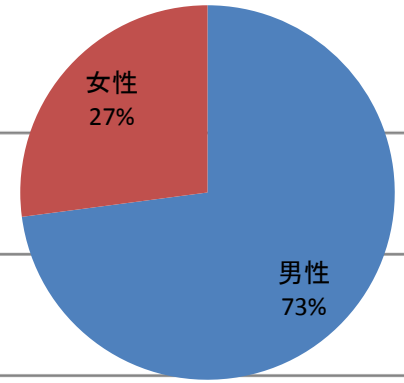
4名



アンケート回答者の男女比

回答者総数	658人
男性	474人
女性	176人
回答なし	8人

■ 男性 ■ 女性 ■ 回答なし ■ 休職者



男性(40代)平成10年～

女性(40代)平成6年～

女性(40代)平成20年～

女性(30代)平成20年～
女性(40代)平成9年～

女性(30代)平成20年～

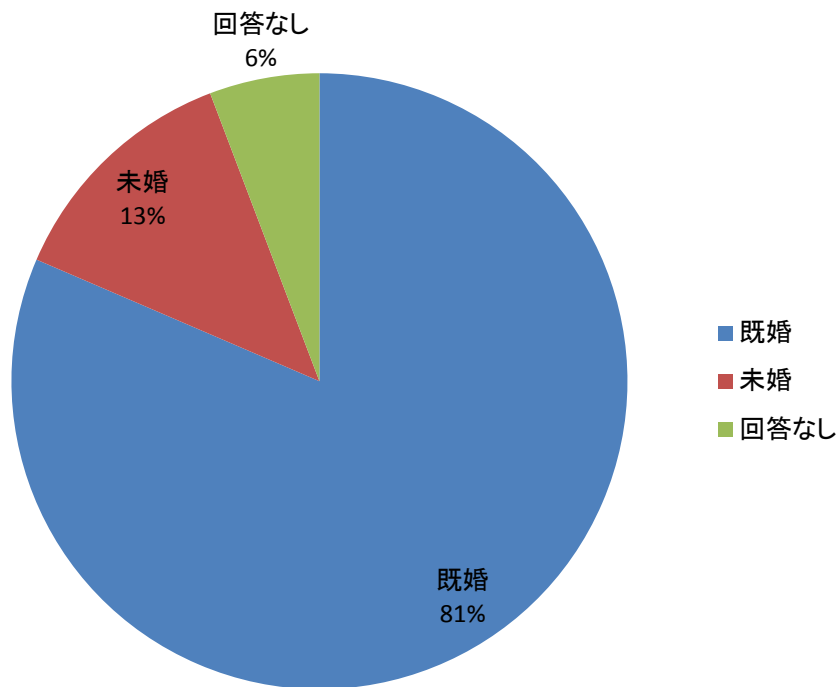
女性(30代)平成19年～

女性(30代)平成21年～

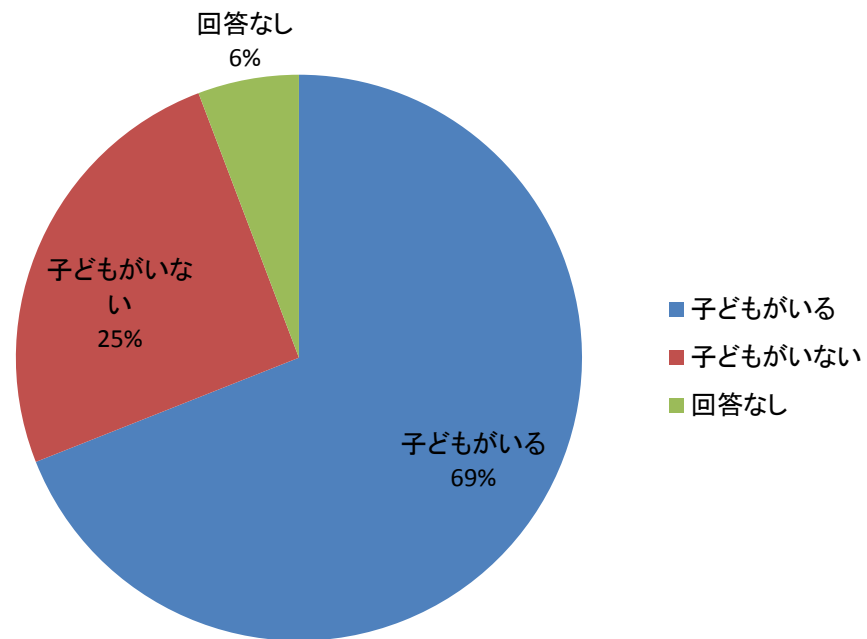
女性(30代)平成20年～
平成21年～

女性(30代)平成19年～

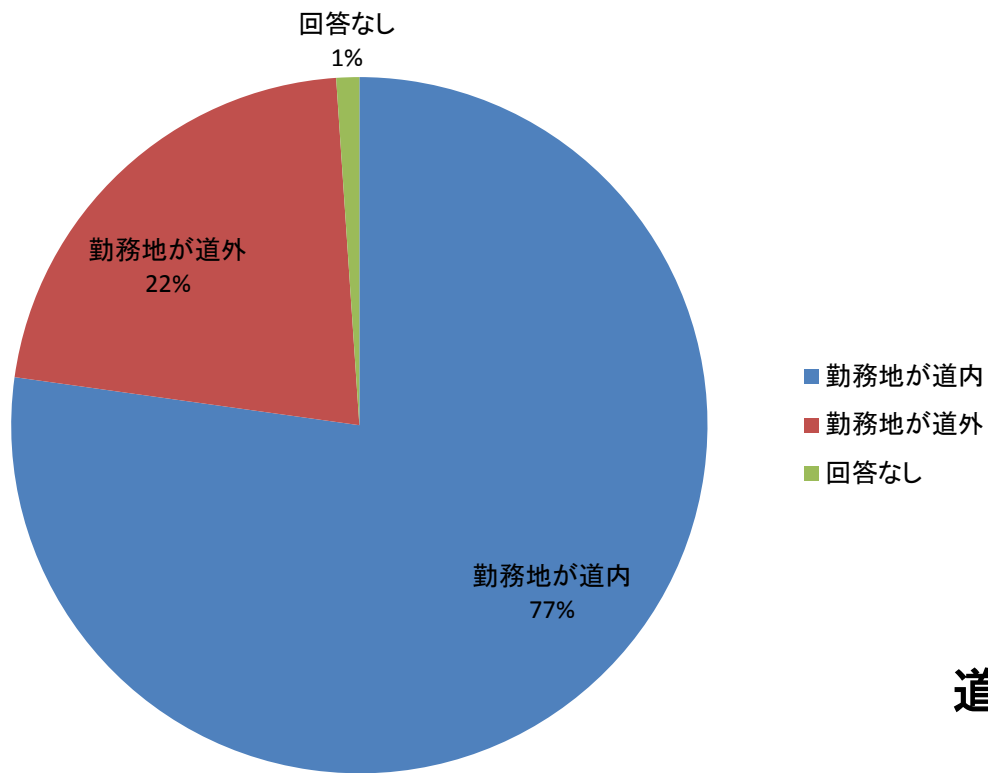
回答者の既婚率



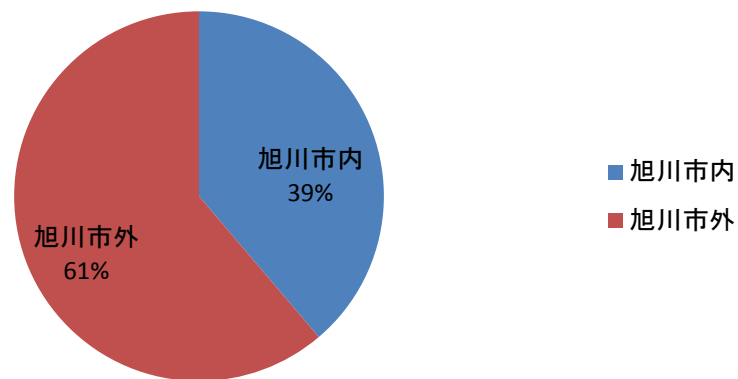
子どもの有無



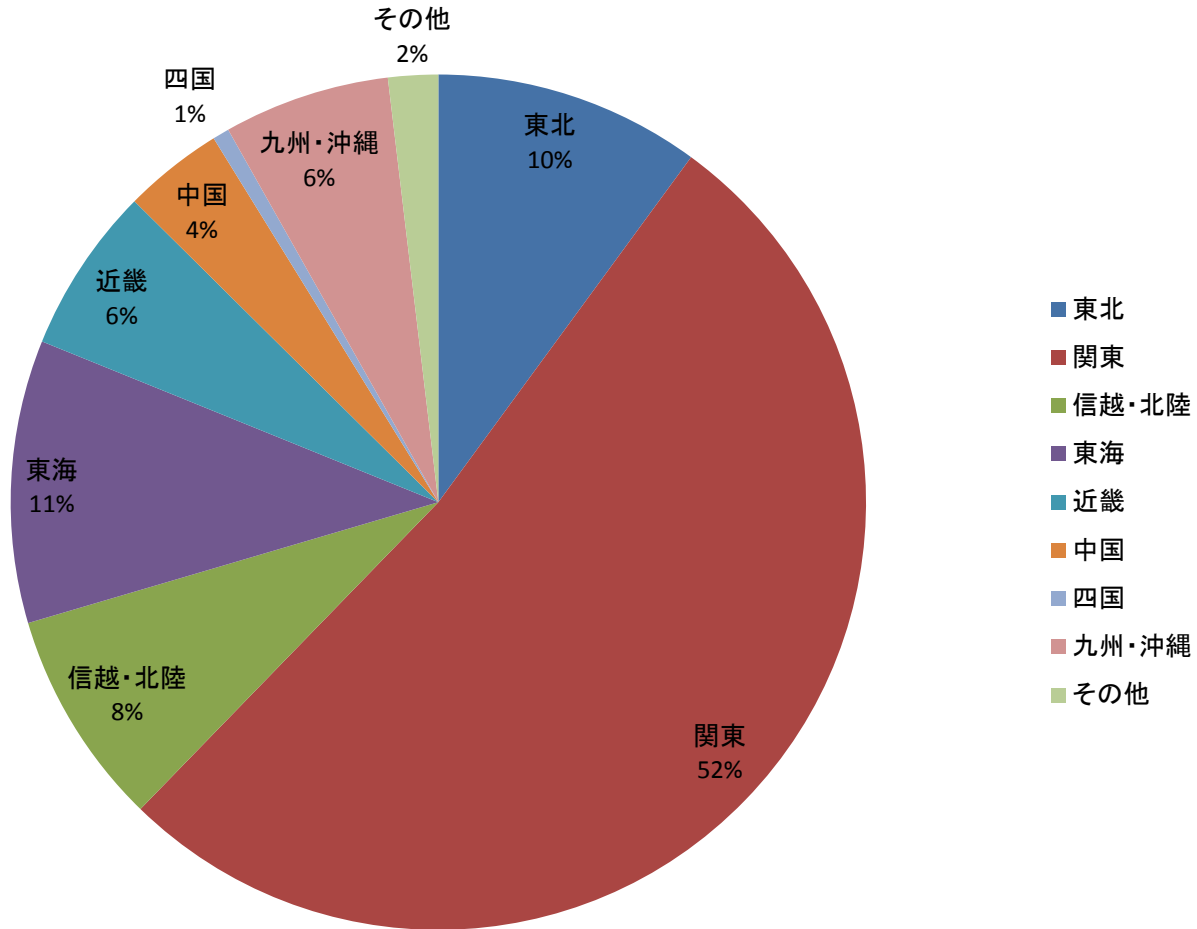
勤務地の状況



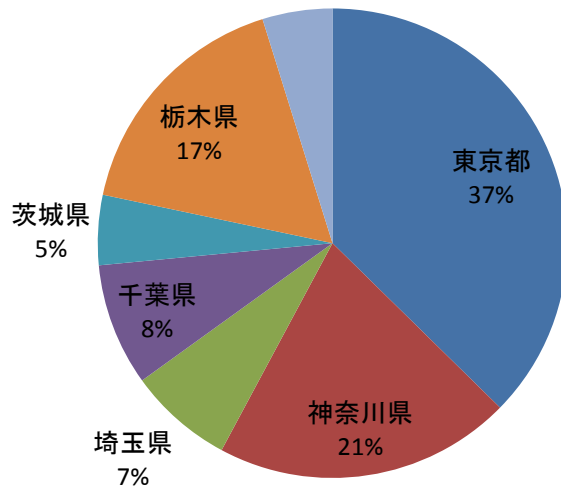
道内勤務者の状況



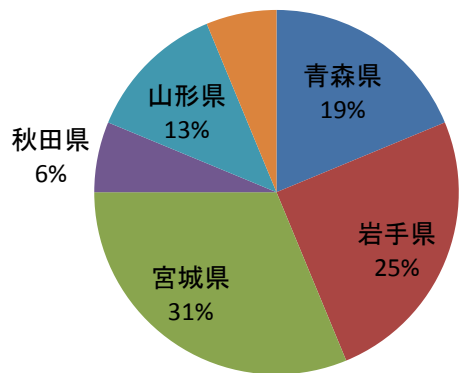
道外勤務者の分布状況



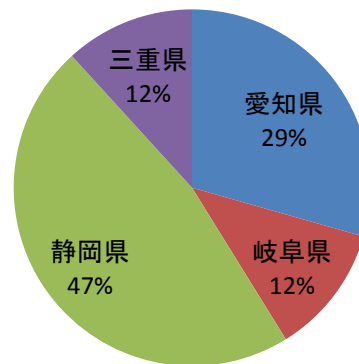
群馬県 関東



福島県 東北

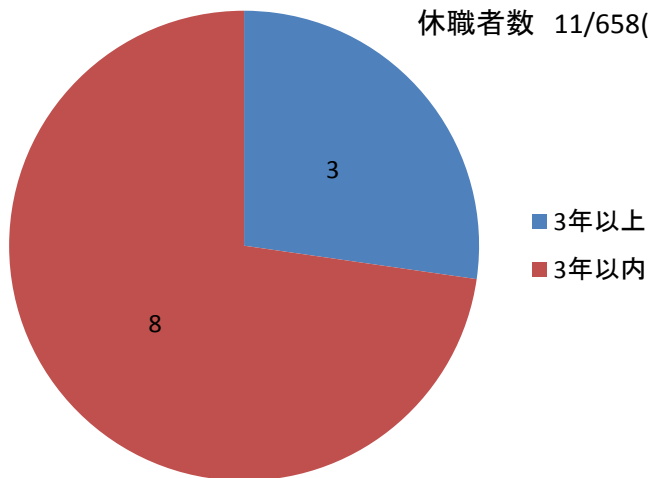


東海

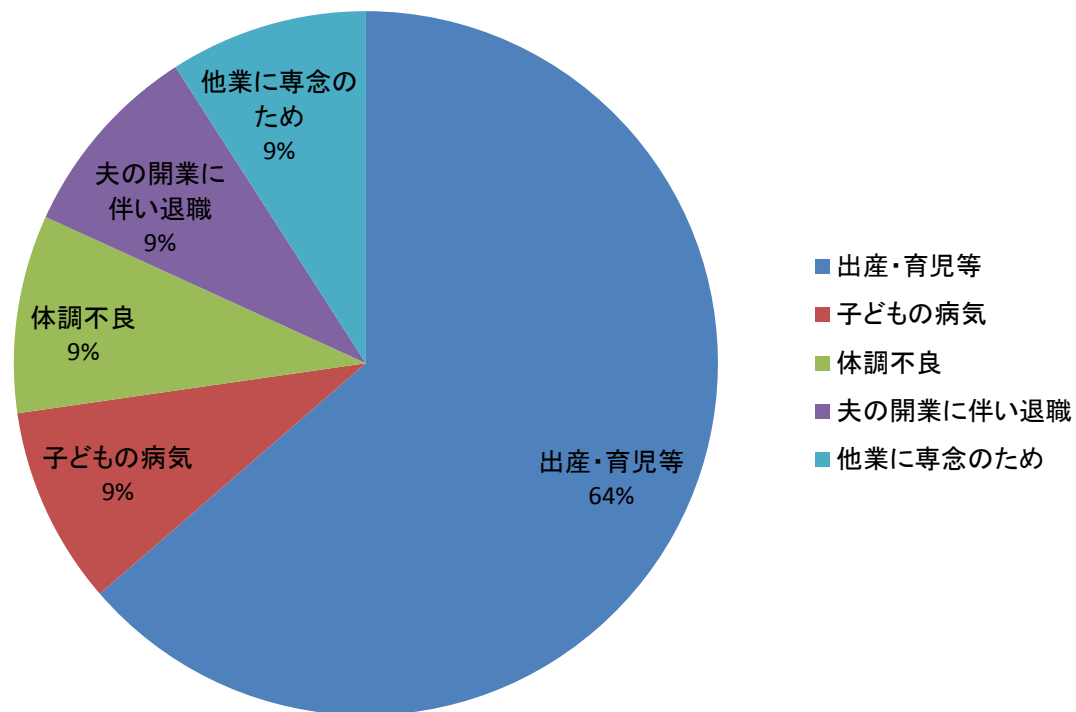


休職者の状況

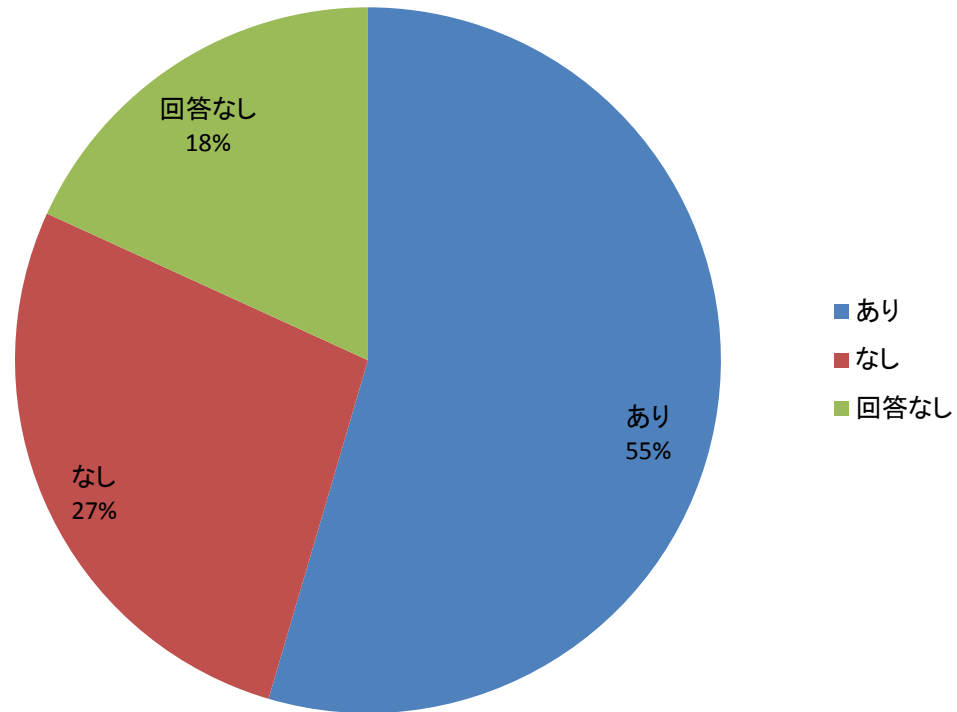
休職者数 11/658(人)



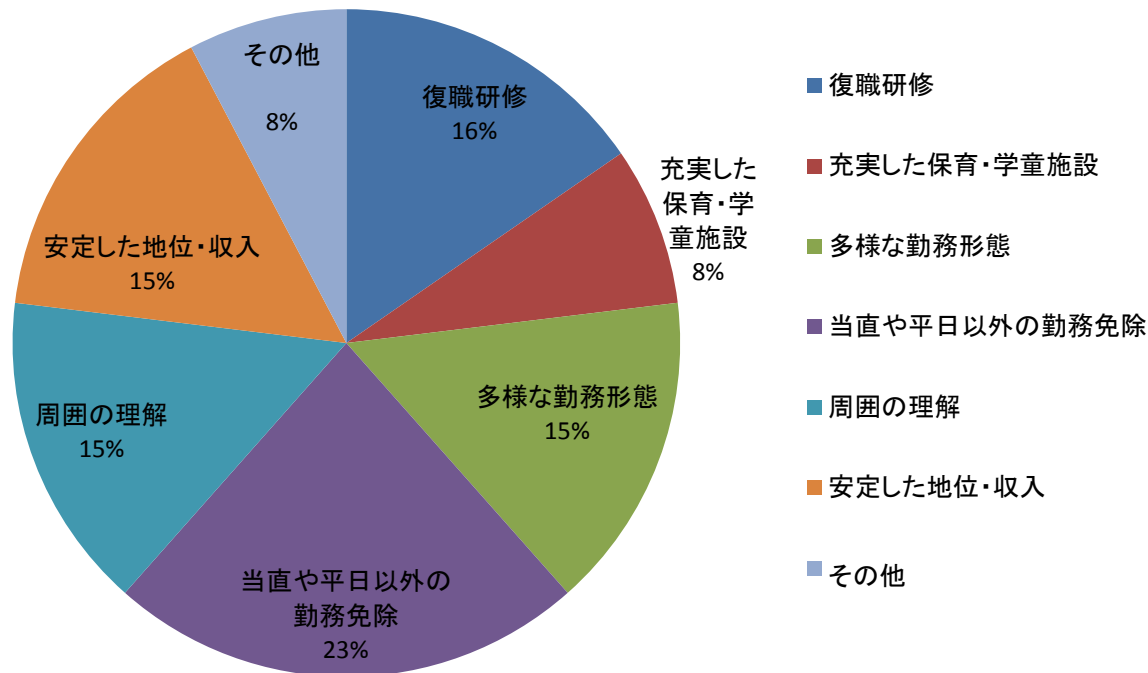
休職理由



復職の予定はありますか？



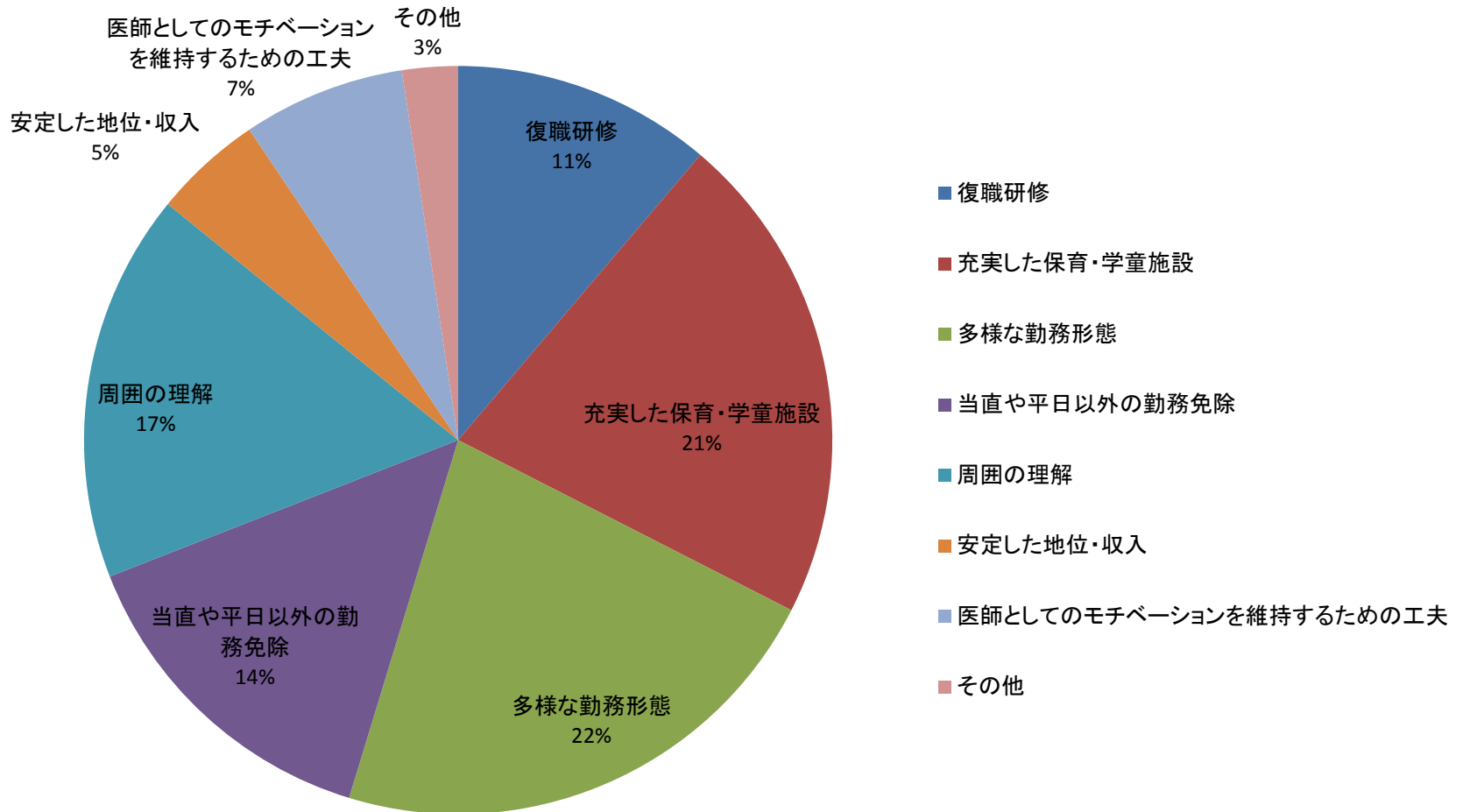
どのようなサポートがあれば復職したいですか？



〈その他の意見〉

- ・周囲の理解が一番ですが、理解があっても実際自分が休めば患者さんや他の医師にしわ寄せが来る。パート医師間でお互い急な休みの時に派遣社員のような制度で補えあえると気が楽な気がします。

子育てを理由に休職している医師に対する支援として 何が必要ですか？



《皆様からのご意見》

- ・子どもを持ち医師として活動し続けることに不安を感じ、子どもを持たないまま過ごし、やっと少し自信がもて、子どもが欲しいと思った時には“時すでに遅し”でした。こんな事がなく普通のライフスタイルを普通に選べるような世の中になると良いですね。
- ・結婚後も帰宅は毎日深夜、妊娠中は妊娠6カ月まで他の医師と同じように当直をしていました。子供が生後7カ月で復帰しましたが、周囲の無理解に限界を感じ女性医師バンクにお世話になり、その3か月後に転職しました。今は、元気に働いています。女性医師への支援は大変ありがたいものです。
- ・男性医師も育児に参加することで、妻(医師)の負担を軽減できると思う。夫婦とも医師で夫の方にも子育てに参加しやすい環境作りを進めて欲しい
- ・医師の女性が占める割合が増加しています。女性の働きやすい環境を整えることが、疲弊している医師たちの救いにつながると思いますので、このような活動に期待します。

- ・人として仕事以上にプライベートを充実させることが、とても大切だと思います。そして、それが結果的に組織全体そして患者様の利益となると考えます。
- ・妊娠中の医師・看護師について感染対策や危険行為の回避等具体的なパンフレット等があると、周囲への説明にもなり良いかと思います。産んだ後からだけでなく、産む前からの流れが分かるとスムーズに復職しやすいと考えます。
- ・少なくとも大学病院で、勤務形態の異なる医師と看護師を同じ立場で取り扱うことは、無意味ではないのか。「医師は医師の」「看護師は看護師の」支援センターを別個に置くべきである。
- ・臨床をやっていると定時でイベントが起こり完結することばかりではなく、パートタイマーが当直をしないならその分は現場で回さざるを得ません。現場の負担が増えるとますます大学で働こうと考える医師は少なくなるでしょう。国が「ハケン」の規制緩和を行って、そして「今」となっているように、結果は異なるかもしれませんが、いたずらに需要の拡大を行うと後の反動が心配です。是非、現場の負担も十分考えてプランをより良いものにして下さい。